

## 第2回 学校評価結果のお知らせ

松山市立姫山小学校 <http://himeyama-e.esnet.ed.jp/>

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。2学期末に行った児童アンケート、保護者アンケート、教職員自己評価の結果についてお知らせいたします。今回の結果を教職員で共通理解し、今後の教育活動に活かして参ります。

なお、本結果は、ホームページにも掲載しています。

## 1 評価結果

【評 定】4:よくあてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:全くあてはまらない  
【肯定率】評定4と評定3の合計値(%)

番号	対象	質 問 項 目	1 学 期		2 学 期	
			肯定率 (%)	評定 平均	肯定率 (%)	評定 平均
1	児童	楽しく学校に通っている。	91	3.6	96	3.6
	保護者	お子様は、毎日楽しく学校生活を送っている。	95	3.5	97	3.5
	教職員	教育目標「自ら学び、ともに生きるたくましい姫山っ子の育成」の実現に向け、効果的な教育活動を実施している。	100	3.4	100	3.6
2	児童	授業は楽しく分かりやすい。	96	3.6	95	3.6
	保護者	お子様は、授業内容をよく理解し、楽しく学習に取り組んでいる。	89	3.2	89	3.2
	教職員	一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	100	3.6	96	3.3
3	児童	パソコン(タブレット)や投影機を使った授業は楽しく、分かりやすい。	94	3.6	95	3.6
	保護者	学校(先生)は、授業の中でパソコン(タブレット)や実物投影機等の情報機器を効果的に活用している。	98	3.3	97	3.5
	教職員	教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的に ICT を活用している。	100	3.4	100	3.6
4	児童	テストのできなかったところを見直したり、間違いを直したりしている。	91	3.5	89	3.4
	児童	宿題などの家庭学習や読書を、毎日がんばっている。	92	3.5	91	3.5
	児童	進んで体を動かし、体力づくりにはげんでいる。	83	3.3	81	3.3
	保護者	お子様は、家庭で学習や読書を頑張っている。	81	3.1	84	3.1
	教職員	児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	93	3.3	100	3.5
5	児童	友達に優しくし、仲よく過ごしている。	98	3.7	97	3.7
	保護者	お子様は、思いやりをもち、友達と仲よく過ごしている。	97	3.4	98	3.4
	教職員	人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	100	3.7	100	3.7
6	教職員	「学校のきまり」(学校生活のしおりに記載)など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導を行っている。	100	3.6	100	3.6
7	児童	進んで学習や仕事をし、将来の夢に向かってがんばっている。	91	3.5	88	3.4
	保護者	お子様は、進んで手伝いや仕事をするなど勤労意欲を高めたり、将来の夢に向かって努力をしたりしている。	68	2.8	68	2.9
	教職員	将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	93	3.0	100	3.2

8	児童	学校は、きれいで安全な環境になっている。(安全な学習の場、けがの予防、避難訓練、交通安全)	98	3.8	97	3.7
	保護者	学校は、交通安全やけがの防止に関する指導、警報発表等の非常変災時の適切な対応等、安全な環境づくりに努めている。	99	3.5	99	3.4
	教職員	児童に交通安全やけが等の防止、非常変災時について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	100	3.7	100	3.6
9	児童	「早寝・早起き・朝ご飯」・手洗いなど自分の生活や健康に気を付けている。	91	3.5	89	3.4
	保護者	お子様は、自分の生活や健康に気を付けるなど、基本的な生活習慣が身に付いている。	88	3.1	89	3.2
	教職員	個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康保持・増進に努めている。	100	3.6	100	3.6
10	児童	先生は、親切に相談にのってくれる。	98	3.8	97	3.7
	児童	先生は、自分のよいところを認めてくれる。	96	3.7	97	3.7
	保護者	学校(先生)は子どもたちのことをよく理解し、一人一人を伸ばそうとしている。	96	3.4	96	3.4
	教職員	特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	100	3.6	100	3.6
11	教職員	管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	100	3.6	96	3.6
12	教職員	子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	100	3.5	96	3.4
13	児童	ふるさと姫山のことを学ぶのは楽しい。	91	3.6	94	3.6
	児童	学校の行事や活動は楽しい。	96	3.7	97	3.8
	保護者	学校(先生)は、保護者や地域と連携して地域の特性を生かした行事や活動を実施し、子どもたちも楽しく活動している。*連携: 学年活動時の地域の講師や保護者ボランティア等	98	3.4	98	3.4
	教職員	教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	93	3.4	100	3.4
14	保護者	学校は、お知らせ文書や学年・学校だより、ホームページや MAC メール等により、積極的に情報を発信している。	98	3.5	100	3.6
	教職員	お知らせ文書や学年だより・学校通信、ホームページや tetoru 等により、積極的に情報を発信している。	96	3.6	100	3.6
15	保護者	学校(先生)は、授業の中で板書(黒板)を工夫したり、教室・校内の掲示物を充実させたりしている。	100	3.6	100	3.5
	教職員	言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	96	3.5	96	3.3
16	教職員	小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	85	3.0	89	3.1
17	教職員	教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	81	2.9	89	3.0
18	教職員	関係園・校で連携し、児童に対する教職員の理解や、児童生徒の相互理解の促進を図っている。	85	3.1	89	3.2

## 2 アンケートの考察

- 項目1・3・5・8・10・13は、児童・保護者・教職員ともに肯定率が90%を超えている。児童は、安全で安心できる教育環境の下、楽しい学校生活を送っている。また、児童や保護者だけでなく、地域の方々のも船の国集会や姫っ子フェスティバルなどの学校行事に参加してもらうなど、連携を図りながら学校教育を推進している。
- 項目2の授業に対する児童の評価は1学期と同様、高い水準である。また、授業におけるICTの活用についての項目3の児童・保護者・教職員の評価は1学期より上昇している。今年度、リーディングDXの研究を実践し続けてきた成果だと考えることができる。ICTの実践が増え、単元における活用の仕方が明確化されたことが一つの要因と考える。今後は、タブレット端末の活用が当たり前となり、アナログとデジタルの併用が児童にとって一つの学習形態となるよう、実践を積み重ねていく。
- 項目2、4、9の家庭学習、運動、基本的な生活習慣に関しては、肯定率が80%台の項目があり、他の項目と比較しても低い。また、学力や体力については教職員と児童・保護者の評価に大きなずれが生じている。教職員は日々の生活の中で、継続的に指導していくとともに、生活習慣調べや学校・学年だより、保健だよりなどを通して、家庭への啓発をさらに努めていく必要がある。
- 項目7のキャリア教育に関する評価が保護者の肯定率68%、評定平均2.9ポイントと1学期より若干上昇している。体験的な活動や総合的な学習の時間での平和学習等の充実が要因の一つと考える。家庭との連携を深めながら、教育活動全般を通して、またキャリアパスポートなどを活用しながら将来の自分について考えていけるような工夫を展開していく必要がある。
- 項目13の地域の特色を生かした教育活動・学校行事についての評価は高い。地域の「ひと・もの・こと」から学ぶことは児童にとって価値がある。「SDGs」や「ふるさと姫山」の視点で「学び」を見つめ直し、教科横断的なカリキュラム作りに取り組んでいるところである。来年度は、創立30周年の節目の年である。さらに地域との連携を充実させることで、姫山を愛する児童を育てていきたい。
- 項目14のお知らせ文書や学校だよりの発信についての評価も高い。テトルの導入があり、発信の内容も多様にできるようになった。引き続き、発信を続けながら、保護者にとって分かりやすく関心のもてる内容にしていく。
- 項目16・17・18については、生活科や総合的な学習の時間、学級活動などの時間を活用して、今後も幼・保・小・中の連携の在り方を探っていきたい。